



令和5年度

茨城県優良図書紹介（小学校中学年向け）



『病院図書館の青と空』 令丈ヒロ子(講談社)

病気で入院した空花は、病院にある図書館で本の中に住んでいるアオと出会います。2人は大好きな本の中で本音を語り合います。お互いをわかりあっていく、友じょうをえがいた作品です。



『すごいゴミのはなし ゴミ清掃員、10年間やってみた。』

滝沢秀一文、スケラッコ 絵、萩原まお 絵（Gakken）

いつも捨てているゴミはどうやって処理されるのでしょうか。ゴミ清掃員である筆者だからこそ分かるゴミの世界から、「環境問題」について考えてみよう。環境のために私たちにできることを見つけてみませんか？



『保護ねこ活動 ねこかつ！ ずっとのおうちが救えるいのち』

高橋うらら（岩崎書店）

猫の命を救うため、保護ねこ活動にいっしょうけんめい取り組む梅田さん。こんなにも負けずに活動する熱意と行動力に心動かされます。そして、保護ねこ活動には、さまざまな活動があるのです。



『ななかまカナ?』

新井爽月 著、浅沼とおる 絵 (フレーベル館)

上から読んでも下から読んでも同じになる回文。アメリカからの転校生トムは、回文が大好き。主人公りくは、おさななじみの池ちゃんとトムと「回文トリオ」を結成。回文「ななかまカナ?」には、りくの深い思いが込められています!



『戦争をやめた人たち 1914年のクリスマス休戦』

鈴木まもる (あすなろ書房)

戦争とは、相手や相手の大切なものをきずつけること。同時に自分や自分の大切なものをきずつけること。そんなことは誰が望むのでしょうか。大事なものを守るために、勇気を持って行動する大切さを教えてもらえます。



『わたしたちの歌をうたって』

堀直子 著、alma 絵 (文研出版)

転校生によるじこ紹介で初めて短歌について知った主人公。短歌を作る中で、きっとだれもがなやむであろうこんなにぶつかります。友達と一緒に悩みを乗り越えられる勇気をもらえる本です。



『はっこう (発酵) 地球は微生物でいっぱい』

小川忠博 著・写真、横山和成 監修 (あすなろ書房)

はっこうというと、納豆やチーズが思いうかびますが、それだけじゃありません。給食に出るパンや大人が飲むワイン、誰もががしたことがあるオナラもはっこうからできている! 意外と知らない、身近に存在している様々な微生物によるはっこうのお話。

『ピースがうちにやってきた』

村上しいこ 著、相野谷由起 絵 (さ・え・ら書房)

がまんして、えんりよして家族と過ごす毎日は、つんつんして、きゅうくつで…さみしい。本当の家族になるために、サチは一步をふみ出す。とまどいながらも勇気をもつことができたサチの成長をえがく物語。



『ワニのガルド』 おーなり由子 (偕成社)

さびしい人にだけ見えるおばけでおっさんのワニのガルドと転校したばかりで友達がいないヒナちゃんと友達はあるけどいつもどこか寂しい気持ちのアヤカちゃんのクスツと笑えてあたたかな気持ちになるストーリー。学校でのガルドのおどかし方はもっとやっちゃえ！！と読んでてニヤニヤしてしまいます。

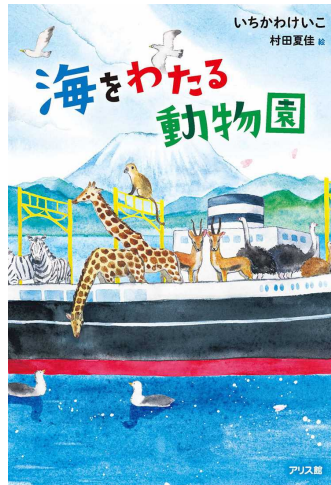


『海をわたる動物園』

いちかわけいこ 著、村田夏佳 絵 (アリス館)

戦争でからっぽになってしまった動物園を復活させようと船で、アフリカから日本へ動物を運びます。

日本に着くまでの間、動物のお世話を任された主人公は…動物の生態、お世話の方法が知れる、動物好きにぜひ読んでほしい一冊。



『すずばあちゃんのおくりもの』

最上一平 文、黒井健 絵 (新日本出版社)

昔、戦争で、だんなさんと子どもを亡くしたすずばあちゃんはむらのあちこちに花の種をまいて、自分の子どものように大切に育てています。戦争で辛い経験をした人がたくさんいて、優しい人はそれだけ辛いことを経験しているということを感じさせられます。





『いつか空の下で さくら小ヒカリ新聞』

堀直子 文、あらい 絵（汐文社）

あすかは、養鶏場の片隅で傷ついたにわとりを助けたことで、養鶏場の現実を知ります。いつも食べているたまごだけれど…。にわとりが幸せでいられるように、あすかは、自分にできることを始めます。